

戦略目標①：町内の鉄道駅周辺を拠点とした名古屋都心への充実した交通体系づくり

名古屋都心へ向かう交通結節拠点として、町内だけでなく周辺市町村の公共交通との連携を踏まえた路線バスの編成や、鉄道駅を中心としたネットワークを形成し、名古屋駅と町内の鉄道駅を結ぶ充実した交通体系づくりを進める。

基本方針1：拠点の活力を創出する交通体系の整備

利用者が多く、他市町村からも利用が多い近鉄蟹江駅を始め、各鉄道駅周辺を交通結節拠点とし、円滑な交通環境を確保すべく、駅を中心に、周辺道路のネットワークを含めた都市機能拠点としての整備を進める。

基本方針2：周辺市町村と連動した広域公共交通ネットワークの形成

名古屋都心へと向かう交通結節拠点として、周辺市町村との連携を図り、各辺市町村の路線バスとの連続性や乗継ぎを踏まえた、公共交通の見直しを図る。

戦略目標②：公共交通を中心とした環境にやさしい交通手段への転換

今後の進展していく少子・超高齢化社会の中で、誰もが気軽に移動し、都市の活力を維持することができるように、公共交通を中心とした交通手段を充実させるだけでなく、各交通手段との連携、利便性の向上による利用者の増加を図る。

基本方針3：公共交通の利用を促進するサービスの充実

公共交通の維持・活性化のため、利用者ニーズに合わせて、バス停・駅周辺の環境改善を進める。また、既存の利用者だけでなく、新規利用者を獲得するためにも、公共交通の利用促進や潜在的なニーズを把握することで、公共交通が町民の交通手段となるべく促進する。

基本方針4：人々の移動を支える公共交通軸の確保

交通結節点である鉄道駅と連動し、町内の公共交通の利便性・快適性を高めるためにも、町内を循環する路線バスの見直しを図る。

また、都市機能拠点、生活拠点、公共交通空白地等、それぞれの地域の実情に合わせた交通手段の確保に努め、それらの綿密な連携を目指す。

戦略目標③：円滑な移動による暮らしやすい交通環境づくり

円滑な移動ができる暮らしやすい交通環境を形成するため、ボトルネックとなっている交差点や踏切の交通渋滞を改善すると同時に、都市計画道路等の整備による移動の円滑化を促進する。

基本方針5：交通のボトルネックの解消と交通の分散による円滑化

交通の集中により渋滞が発生している交差点や踏切について、ハード整備による抜本的な改良を見据えつつ、案内表示等による交通の分散といったソフト対策にも取り組み、交通の円滑化を促進する。

基本方針6：道路ネットワークの充実

南北の主要な幹線軸である一宮蟹江線、蟹江飛島線（西尾張中央道）に交通が集中していることから、南北の交通を分散し、町内の移動円滑化を促進するため、南北を通る都市計画道路等の整備を進める。

また、狭隘道路が多い地域では、主要な幹線軸へのアクセス性を向上させるため、都市計画道路等の早期整備に向け、計画の見直しを含めたネットワークの形成を図る。

戦略目標④：安心・安全な暮らしができる生活空間の創出

徒歩や自転車、自動車といった多様な交通手段、高齢者や児童、学生や会社員といった多様な人々が混在する生活空間において、安心して暮らせ、安全に移動ができる交通環境を創出する。

基本方針7：生活道路の安心・安全な交通環境づくり

多様な交通手段、多様な人々が混在する生活道路において、安全に移動ができる交通環境づくりをするために、生活道路に過度な交通が集中しない交通規制、交通安全施設の整備に取り組む。

また、自家用車中心の交通手段から、身近な生活圏内においては、徒歩・自転車中心の交通手段へ転換促進するため、歩行者・自転車ネットワークの構築、優先的な通行空間の整備を進める。

基本方針8：道路整備による防災機能の向上

都市防災機能の向上を図るため、災害時の緊急輸送道路となる道路ネットワークの整備に取り組む。また、防火帯及び消火救護活動の支障となりうる狭隘道路についても整備を進める。